

平成29年度学校評価表

島根県立宍道高等学校

評価計画					自己評価						学校関係者評価				
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年度)	評価値 <通信> (昨年度)	評価値 [b] (昨年度)	達成指数 [b/a]	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価	助言等	次年度への改善策
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自らを理解し主体的に学ぶ意欲を育てる	学力の向上 一人一人の学びを実現し、主体的に学ぶ態度を養う。	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫および改善 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	85%	77.6%	—	77.6%	91.3	B	実際の出席率は、前期中間試験(6月)までが86.8%、前期末試験(9月)までが82.3%、後期中間試験(11月)までが79.9%、1月末が78.6%となっている。今年度は、年度当初から1年次生の出席率が特に高く、それが全体の出席率を高めたが、9月以降は全体的に出席率が低下した。前期の出席率をいかに後期につなげていくかが課題である。	A	・少人数指導の特徴を活かすなどして、引き続き単位習得率の向上に努めて欲しい。 ・少人数指導による学力向上と併せて、目の行き届いた指導をする事で生徒達は相談をしやすくなると思う。 ・学力向上＝出席率向上とはいかないが、まずは出席率を上げることは大切なことである。中だるみ傾向のモチベーションを保つための対策案として文化祭時期の変更や地域貢献事業と合わせて考えられないだろうか。 ・通信制の単位を修得した生徒の割合からみて、学習意欲のあまりない生徒へはどのように対応していくとよいか。	【教務】 <定時制> ・全教員で協力し、少人数指導のメリットである「安心感」や「きめ細やかな授業」を推進していきたい。そのためには、生徒の実態把握や情報交換、授業のルール等の共通理解と徹底を図っていく。 ・学年次会と連携して、長欠になりそうな生徒に対する気づきとその対応を早めから行っていく。 ・次期学習指導要領を踏まえた「協働学習」を、本校の実態に合わせて少しずつ取り入れていけるように、授業公開旬間等を活用しながら教員の授業力向上を図ってきたい。 <通信制> ・受講登録を行うが、単位が全く修得できない生徒の状況については分析・検討し、その対応や方策を考える。
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	90%	92.2%	—	92.2%	102.4	A	今年度で6年連続、目標値を超えた。特色である「少人数指導」が、新入生に期待されていることでもあり、また、在校生においても安心して登校できる理由の一つになっている。今後は、少人数指導と次期学習指導要領を意識した授業づくりをどのようにつなげていくかが課題である。			
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	90%	—	94.6%	94.6%	105.1	A	通信制の学習システムがよく理解され、スクーリングとレポート作成をうまく連動させて学習ができている結果と考えられる。添削内容の内容に加え、レポート返却の速さも満足感に表れていると思う。今年度は提出期限日を設定し、生徒が計画的にレポートを出しやすいう工夫をした。来年度も同様に提出期限日を設定することにした。本校生徒の実態を踏まえ、さらに適したレポート作成、スクーリング実施が課題である。			
					単位を修得した生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	85%	85.9%	—	85.9%	101.1	A	単位修得のためには、まずは、きちんと授業に出席させることが重要である。それについて、少人数指導や生徒の実態に応じた授業づくりによって、生徒が安心して学習をすすめるような授業環境を整えることができた。、さらに、学年次会や担任の協力のもとで、欠課時数が多くなってきた生徒に対して早めから声がけができた。これらのことにより、目標値を超えることができたが、今後は長欠生徒への登校の促しと、それをいかに単位修得につなげていくかが課題である。			
					授業公開旬間は授業力向上に効果的だったとする教員の割合	80%	85.5%	—	85.5%	106.9	A	昨年度の目標値は定時制と共通だった。今年度、通信制としての目標値を70%とした。昨年度より約5ポイント下がっている。487人中176名のまったく単位の修得ができない生徒の状況を分析して見ることが必要である。来年度は半期単位認定制度に移行する。半期単位認定制度を実施している学校の話の聞くと、前期の単位修得率に比べ、後期が低下する傾向になるらしい。前期の単位修得率を後期に維持できるように取り組むことが課題となる。			
					読書意欲の喚起と利用促進	80%	85.7%	96.3%	91.0%	113.8	A	今年度は、授業者が授業公開日を定めるという方法を取り入れた。これにより、授業者は自身の「ねらい」を明確化し、それがどの程度達成されていたかが見学者を通じて把握できた。また、見学者は自身が興味を持った「ねらい」についての授業を見学することができた。これらのことにより、昨年度に比べて効果的だったとする割合が高くなった。今後は、次期学習指導要領に添った授業づくりの手助けとなる旬間の在り方を検討していくことが課題である。			
		進路の実現 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワーク、ジョブカフェ等と連携しての就職支援 ○面接指導、作文、小論文などの個別指導の徹底 ○通信制卒業予定生の個別支援の充実	図書研修	図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合	80%	85.7%	96.3%	91.0%	113.8	A	図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合が多く、今後も日曜スクーリング開館やマナー指導等を継続し、利用促進を図る。			
					就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合	90%	100.0%	100.0%	100.0%	111.1	A	3/28現在、卒業生135人(定40・通95)に未定者はいなくなった。内訳は進学決定者が60人(定18・通42)、就職決定者が38人(定16・通23)である。就職決定者の内訳は新規就職者26人(定14・通12)、既就職者とアルバイト継続が11人(定1・通10)である。また、進学・就職以外で、専業主婦や進学浪人、卒業目的などの者が37人(定7・通30)である。進学・就職ともに、受験に踏み出した生徒については、概ね順調に進路が決定しているが、一歩を踏み出せない生徒、また、一般的な進学・就労が様々な理由で困難な生徒も多く、そういった生徒への支援を手厚くしていくことが課題である。			
					進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	80%	77.9%	90.4%	84.2%	105.2	A	担任をはじめ、全教員の理解・協力のもと、予定通り順調に進路学習・進路活動支援を行うことができた。総合評価値はほぼ例年並みであるが、内訳をみると、定時制生徒の評価が下がっている。(この傾向は、下の2つの項目にも共通しているところである。)その原因としては、定時制生徒アンケート結果から「将来に目標をもって頑張っている」と答えた生徒の割合が低学年ほど低く、また今年度は定時制生徒の約半数が1年次生であることが関係していると考えられる。できるだけ早く進路目標を持つことが重要であり、その指導が課題である。			
					企業見学やインターンシップ、外部講師による講演会は役立つと感じている生徒の割合	85%	84.6%	90.4%	87.5%	102.9	A	外部の人からの成長刺激が得られるよう、バスをチャーターしての企業見学、インターンシップ、外部講師による進学就職講座、卒業生(進学者・就職者)を招いて講話と座談会などの行事を行った。各行事のあとでアンケート調査した結果でも9割以上の生徒が将来の参考になったと答えている。しかし、一部の生徒を除き、これらの行事が生徒自身の将来設計に直接役立っているとは言えず、一過性のものになっているのが課題である。			
					提供された進路情報や進路だよりは役立つと感じている生徒の割合	75%	77.1%	93.6%	85.4%	113.8	A	進路のしおり、碧雲通信、進路だより、進路情報誌、ホームページなどで予定通り情報を発信した。進学・就職の受験先が決まった生徒には受験対策資料を個別に用意して渡すようにした。一方で、進路のしおり等が十分に活用されているとは言えないので、低学年でさらに活用する場面を用意することが必要である。			
					生徒・保護者への適切な進路情報の提供 ○碧雲通信・進路だより・ホームページによる情報発信 ○進路のしおりの活用 ○進路相談会の実施	70%	—	—	—	109.0	A	外部の人からの成長刺激が得られるよう、バスをチャーターしての企業見学、インターンシップ、外部講師による進学就職講座、卒業生(進学者・就職者)を招いて講話と座談会などの行事を行った。各行事のあとでアンケート調査した結果でも9割以上の生徒が将来の参考になったと答えている。しかし、一部の生徒を除き、これらの行事が生徒自身の将来設計に直接役立っているとは言えず、一過性のものになっているのが課題である。			

調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、自分を大切にするとともに、他の人を大切にできる豊かな心を育てる。	安全・安心の確保 学校生活において、自らが明るく学び合い、成長し合える環境づくりに努める態度を育てる。	生徒	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	90%	90.6%	95.4%	93.0%	103.3	A	目標値の90%を定時制、通信制ともに越えた上、全体的には昨年に比べ若干ではあるが上昇している。定時制における少人数指導、通信制における細やかな指導の効果が出ていると思われる。	A	・推薦図書を多く紹介するなどして図書室を利用する生徒の割合を増やす取り組みが期待される。 ・教育相談員、スクールサポーター、教職員の連携のもとで生徒は相談ができ、安心だと思う。 ・保健相談の評価で定時制の対前年比が10%以上低下しているが、その分析と対応を検討されてはどうか。 ・年度によって、生徒が求めているものが違っており、それに答えていなのではないだろうか。生徒が何を求めているのか検討されてはどうか。	【生徒】 ・生徒一人ひとりを大切に教育を一層すすめることにより、生徒自身が大切にされていると思えるような環境づくりをする。 ・生徒の実態に即し、単なる知識にとどまらず、自分を大切にするとともに他の人も大切に行動ができるように、命や人権を尊重する教育活動になるような人権・同和教育LHRにするため、教材開発を進めていく。 ・生徒支援委員会やいじめ防止委員会、いじめアンケートの実施によって、生徒の実態や状況を把握するとともに、いじめの早期発見に努める。また、軽微ないじめ及びいじめと疑われる事象に対して、いじめ対策委員会等で協議し、迅速に対応できる体制を整える。				
				教育活動において、命や人権に関する学習が役立っていると考えている生徒の割合	80%	82.7%	86.6%	84.7%	105.8	A					全体的には目標値の80%を超えた上、昨年に比べ若干上昇している。人権ホームルームやe-ネット安心講座、心と性の健康講座などを通じて命や人権を尊重する教育活動を行うと同時に、生徒の振り返りシートや教職員へのアンケートをもとに少しずつ改善を加えながら続けてきた成果があらわれていると思われる。			
				いかなる理由があってもいじめをしないことにしている生徒の割合	100%	92.9%	93.2%	93.1%	93.1	B					いじめを許さない雰囲気づくりを目標にかかげ、LHRや全校集会で指導を重ねた。実態把握のために「いじめに関するアンケート」を年2回行う一方で、定期的に開かれる生徒支援委員会・いじめ防止委員会において、いじめの早期発見に努めた。いじめを疑われる事象に対しては、いじめ対策委員会と協議し、対応した結果、ほぼ収束に向かっている。			
				保健相談部だより、一斉メール、保健室前の掲示物等による情報発信	80%	72.2%	83.2%	77.7%	97.1	B					保健相談部だより、メール一斉配信、保健室前の掲示物等により、心身の健康に関する情報提供を行った。自分のからだや健康に関することはもちろん、年間を通じてタイムリーな話題を取り上げるようにした。特に、春から夏にかけては、熱中症対策、食中毒注意、ヒヤリ注意、秋から冬にかけてはインフルエンザの予防、手洗いうがいの励行などすぐに役立つ情報提供を心がけた。また、健康教育講座後には講座の内容や生徒の感想をまとめたり、講座の内容に関わる記事を掲載した。年間を通じて継続的に発信することで、生徒の心身の健康への関心をさらに高めたい。			
			保健相談	相談活動の充実 ○生徒支援委員会を活用した教職員と教育相談スタッフとの連携 ○家庭や医療機関、専門機関等との連携	80%	80.1%	91.9%	86.0%	107.5	A	教育相談員やスクールサポーターに対して、実際に関わっている生徒は全体からすると少人数であるにもかかわらず、定時制でも通信制でもかなり高い評価が得られた。これは、教育相談員やスクールサポーターとの日々の振り返りや勤務記録簿を活用した情報の共有などで生徒の様子を継続的にとらえ、教育相談員・スクールサポーター・教職員等が連携し、それぞれの立場から粘り強く生徒に関わってきた成果であると考えられる。そして、この相談事業、相談活動が定着してきた結果だともいえる。支援が必要な生徒がいればその都度関係する教職員で情報を共有し支援している。今後もこの体制は維持しつつ、その中でできるだけ速やかに支援の必要な生徒に対応していくことが重要である。							
				読書意欲の喚起と利用促進 ○明るくさわやかな環境づくり ○「図書だより」の充実	年6冊 年10冊	7.5冊 +2.1	— —	7.5冊 +2.1	108.3 54.0	A C	貸出冊数はわずかながら上昇しているが、授業で活用された結果が数字に表れた。アンケートで生徒のニーズを把握する。貸出冊数の指標と並行して、利用状況の面から本を借りた生徒の割合(昨年度実績:定時制33.3%、通信制22.2%)を新しく指標に立てた。昨年度より良くなり、また目標値もクリアできたが、今後も継続して利用促進を図る。							
			社会とのつながりの中で自ら考え行動し、自ら律する態度を育てる。	自律・自立 基礎・基本を身に付け、自律・自立する態度を育てる。	生徒	行事や活動を楽しむことができたとする生徒の割合	70%	79.2%	72.0%	75.6%	108.0				A	「遠足やスポーツ大会、学園祭などの行事」について問う質問では肯定的な回答が昨年に比べ若干上昇した。特に定時制では顕著であった。事前のアンケートを実施して、生徒の意向を反映していることが満足度に繋がっていると思われる。しかし、通信制では、「わからない」と回答する割合も高かったことから、今後も両課程の生徒がより参加しやすく、楽しめる行事にしていくことが課題である。	A	・環境美化は文化として継承されているように感じられるので、継続してモラルの維持に努めてもらいたい。 ・サークル活動、趣味を生かしたボランティア活動等はできないだろうか。 ・あいさつは、全てにおいて、大切である。あいさつ運動は強化したほうがよい、地域も協力できる。 ・宍道駅の「瑞風」に関わる取組など、地域交流に積極的に参加している生徒もおり、心強く、継続してほしい。宍道高校もできる範囲内で参画してほしい。
						全教職員によるルール・マナー指導の徹底 ○校舎内外のパトロールの実施 ○「あいさつ運動」の実施	80%	78.9%	82.7%	80.8%	101.0				A			
					保健相談	ボランティア活動の奨励 ○各種ボランティア活動(学習)の実施、外部ボランティアの奨励	30人	38人	38人	126.7	A				外部のボランティア活動の案内を積極的に行った。今年度は、瑞風事業の一環のシャッターボランティアをはじめ、7つの行事に自主的に生徒が参加した。今後ともボランティア活動の意識をどのようにして高めていくかが課題である。			
						学習環境の整備と環境美化 ○校舎内外の施設設備の点検と環境整備の推進 ○清掃活動やごみの持ち帰りを通した環境美化への態度の育成	80%	85%	87.4%	86.2%	107.8				A	今年度項目を2つに分けたことにより、ごみの持ち帰りと掃除に対する意識を分けて評価することができた。ごみの持ち帰りに関しては生徒の意識が高いことがわかった。これは、開校以来学校をあげて取り組んでいることであり、定着してきた結果だと考えられる。しかし、平素の清掃や大掃除に対する意識は低いことがわかった。生徒が実施する平素の清掃はSHR後の短時間で、毎日決められた清掃の時間があるわけではなく、その中で多くの作業をすることは難しい。一方、大掃除は年に2回という限られた回数であるが、多くの手で普段できないところまで清掃させ、校舎の美化を図っている。生徒へは様々な機会を通して環境美化を呼びかけ、その意識を高めることが必要である。		
情報管理	様々な情報の提供 ○メール一斉配信システムの管理・運用・促進	80%			78.7%	93.1%	85.9%	107.4	A	昨年度と同様に、高い評価を得ることができた。大切な情報の提供をメール配信で補完した。主に担任と協力し、メール未登録者に対して登録を促し、アドレス変更者等にも個別に対応することに力を入れた結果、定時・通信制生徒ともに70%以上の登録率を維持した。今後も継続して促していく。課題としてはシステムの老朽化があり、年度当初登録ができない不具合が見つまっている、現在は解消されているが、システム全体を見直す時期に来ていると感じる。								
	地域の人々との交流と学校施設の開放 ○宍道公民館との連携を図る	40回 40回			46回 +13.0	46回 +13.0	115.0 82.5	A B	昨年に比べて件数が大きく増えた。増加要因としては生徒部関連のボランティア活動が活発で大きく増加したことや、瑞風に関連した行事等への参加が増えたことがある。今年は地域交流活動が活発だったといえよう。課題は、今後も生徒の地域貢献への意識を高めていくことである。									
地域との連携及び地域貢献	施設の利用	駐車場の開放			15件 15件	26件 +5.0	26件 +5.0	173.3 140.0	A A	駐車場の利用は昨年度よりも増加しており、特にしんじ幼稚園にとっては必須の駐車場となっているように思われる。しんじ幼稚園へは、親子運動会に際してテントの貸し出し、グラウンドの貸し出しも行っており、本校施設・設備に対する利用度は高い。幼稚園以外では、宍道スポーツ少年団への柔道場への貸し出しが1件あるのみである。「学校の施設が利用できる」ということが外部にはあまり知られていないのかもしれない。								
		地域のの方々への学校図書館の開放 ○地域向け「図書館だより」の内容充実			10人(月) 10人(月)	8.9人 -1.1	8.9人 -1.1	89.0 100.0	B A	毎月1回、地域向けの図書館だよりを発行し、HPにも掲載している。次年度も継続する。								
	図書研修	地域の人の平均図書館利用数			10人(月) 10人(月)	8.9人 -1.1	8.9人 -1.1	89.0 100.0	B A	毎月1回、地域向けの図書館だよりを発行し、HPにも掲載している。次年度も継続する。								